



リュディガーフォンフリッチは、モスクワのドイツ大使でした。彼は5年間、ドイツの最高代表であり、ロシアのプーチン大統領に対するドイツの利益も代表していました。並外れた外交官は2019年の夏に引退しました。

エアランゲンとボンで歴史とドイツ語学を学んだ後、リュディガー・フォン・フリッチは1984年に外務局に加わりました。ワルシャワ、ナイロビのドイツ大使館、ブリュッセルのEU常任代表の秘書としてさまざまな役職を歴任した後、1999年に連邦大統領府の計画スタッフ、2004年に連邦情報局の副大統領。3年後、彼は連邦外務局とG8-SousSherpaの経済および持続可能な開発部門の責任者になりました。2010年にワルシャワ大使に就任し、2014年から2019年にかけてドイツ連邦共和国のロシア連邦大使およびモスクワ大使館長を務めました。

Topics

- Europe
- Government
- Politics

2009年に出版された彼の著書『Die Sache mit Tom – eine Flucht in Deutschland』の中で、Rüdiger von Fritschは、1974年に兄と一緒に、いとこと友人がGDRから連邦共和国に逃げるのをどのように助けたかを報告しています。

リュディガーフォンフリッチは明確なスタンスを取りながらも、視点を変える能力を持っています。彼の外交スキルは、彼の魅力的な講義でも明らかです。彼の分析は敏感であると同時に厳格であり、リスナーに新しい視点を与えます。